

溝口
中学校 編

こちら 学校支援地域本部

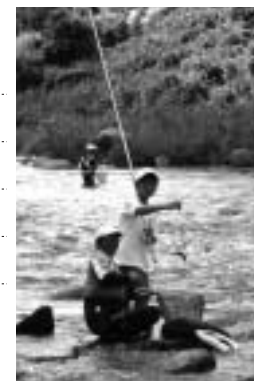
～町民みんなで支える学校 みんなで育てる伯耆町の子ども～

溝口中学校では、福祉学習や放課後学習教室などのボランティア講師として、たくさんの学校支援ボランティアの方々に、支援をいただいています。夏休み中には、1年生が生花・茶道・琴・陶芸・ヨット・鮎釣りの体験をしました。今回は、その体験学習の様子を紹介します。

8月2・3日に溝口中学校プールで、ヨット教室が開かれました。ボランティア講師の内藤武夫さんの熱心なご指導の下、暑い中でしたが2日間の練習を通して、生徒たちは風を受け上手に舵を取れるようになりました。1人でヨットの舵取りができるようになった生徒たちは、いつもよりたくましく見えました。



8月8日ささふく水辺公園近くの日野川で、鮎釣り教室が行われました。一橋信介さん、森安幸二さん、日野川漁協の鮎釣り名人のみなさんにお世話になり、生徒たちは初めての鮎釣りに挑戦しました。的確な指導を受け、生徒たちはみな見事鮎を釣り上げることに成功しました。今回はたくさんの地域の方々とふれあい、身近な自然を体感する貴重な体験となりました。



【問い合わせ先】 教育委員会事務局 総務学事室 ☎62-0927

地域包括支援センターNews

認知症サポーターをご存知ですか？



厚生労働省では、「認知症を知り 地域をつくる10カ年構想」のもと、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指し、認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを全国で100万人養成する「認知症サポーター100万人キャラバン」を平成17年度から開始しました。この認知症サポーターは、構想の中間年である平成21年度には、既に100万人を突破しました。次なる目標として、構想の最終年度である平成26年度までに400万人のサポーター輩出が掲げられています。

『認知症サポーター』とは？

認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族を温かく見守る「応援者」として、自分でできる範囲で活動します。

例えば、友人や家族に認知症についての知識を伝える、認知症になった人やその家族の気持ちを理解するなど、活動内容は人それぞれです。

『認知症サポーター』になるには？

「認知症サポーター養成講座」(1時間程度)を受講する必要があります。伯耆地域包括支援センターまで問い合わせください。



集落の公民館での養成講座

【問い合わせ先】 伯耆地域包括支援センター (総合福祉課総合生活相談室内) ☎68-4632

まちのわだい



TOWN TOPICS

まちのわだい募集

【問い合わせ先】
地域再生戦略課
町づくり推進室
☎68-3113

子ども神輿だ！わっしょいわっしょい 〜平成22年度宝くじ助成金制度〜

坂長農村公園まつりが開催された8月22日、坂長公民館で、子ども神輿の入魂式が開催されました。

坂長では、宝くじ助成金制度により、子ども神輿とハッピを購入しました。この制度は、コミュニティの健全な発展を図ることを目的に助成が行われるもので、坂長では地域の活性化を目的に8年ほど前から申請を続けており、今年やっと認められたものです。

式典を終えた後、そわいハッピに身を包んだ子どもたちは、金色に輝く真新しい神輿を担ぎ、「わっしょいわっしょい」と勇ましい掛け声を発しながら地区内の農村公園まで練り歩きました。



坂長公民館から農村公園まで、神輿を担いで練り歩く子どもたち

ちびっこアスリートの挑戦 〜オールジャパンユニアトリアスロンin伯耆〜

小さな鉄人のレース「第16回オールジャパンユニアトリアスロンin伯耆」が8月22日、伯耆町総合スポーツ公園で開催され、県内はもとより東京都や宮崎県など、全国から304人のちびっこアスリートたちが参加しました。

ちびっこアスリートは、スイム・バイク・ランの3種目に挑戦し、ひたむきにゴールを目指しました。ゴールテープを切ると、家族などからの暖かい拍手で、迎えられていました。

また本大会には、町内外から225人のボランティアが参加し、選手をサポートしたりと、大会の成功を支えました。



大山高原ホテルの解体始まる 〜榊水原集団施設地区 自然景観回復工事〜

景観や安全性の問題が指摘されていた大山高原ホテルの解体撤去が始まりました。この工事は、鉄筋コンクリート造(地上3階建・地下2階)延床面積5,983㎡を更地にするもので、来年度以降、駐車場や展望施設などに整備する予定です。



解体工事が始まった、大山高原ホテル